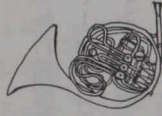


に彼女が求めていた音を与えた。同じくトロントの街では、のちにロック・グループBlood, Sweat and Tearsのリーダーとして名声を博すことになるデービッド・クレイトン・トーマスが、彼のバンドシエイスでリズム・アンド・ブルースを演奏していた。

この演奏に夢中になっていたティーンエイジャーのうちの何人かが、実は今日のカナディアン・ロックのスーパー・スターになるのである。彼らが結成したラッシュ、トライアンフ、マックス・ウェブスター、ゴドー、トルーパーなどのバンドがみなビートの効いた重厚なハード・ロックなのは、彼らがいかにトロントのクラブ・バンドの音楽をそのまま受け継いでいるかを物語っている。



この手のフォークやロックだけが流行ったわけではない。心理的にはカナダ中央部よりアメリカ西海岸に近いバンクーバーでは、チリワックのようなバンドが、西海岸インディアンの様式を実験的に取り入れて新しいサウンドを作り出したし、トム・ノースコットは、ロサンゼルスのレストラン・ニューマンやバン・ダイク・パークスとの共演に刺激されて、気まぐれで空想的な曲を生み出した。

大草原の玄関、ウイニペグでも多くの変化が生じつつあった。レン・カリウー(のちにブロードウェイで『Sweeney Todd』の

大役をこなす)、ダイアン・スタプレー、ジュディ・ランターといったポップ歌手が輩出したほか、ゲス・フリーのようなロックバンドも生まれた。ゲス・フリーはバンドでは成功した部類に入るが、むしろバートン・カミングスや、そこから分かれたバックマン・ターナー・オーバードライブ(ファンにはB.T.O.の名で知られている)を生んだバンドとして有名だ。カントリー・シンガー、ハル・(ローン・バイン)・アローの息子、レニー・アローはカントリーの血筋に背を向けて、ギター界から伝説的とまで言われるソロ・ジャズ・ギターの手法を築き上げた。

大西洋岸では、依然としてバイオリン弾きのドン・メツサーやカントリー・シンガーのフレッド・マッケナといった古い世代の音楽家たちがテレビでははきかかせていたが、新しい世代のミュージシャンも誕生しつつあった。キャサリン・マッキンソンは『Farewell to Nova Scotia』というフォーク・ソングを歌って全国的にヒットさせ、また当時テレビのネットワークで売り出し中のアン・マレーは、ジーン・(スノーバード)・マクレーンの持ち歌を歌っていた。その後、彼女が『スノーバード』を歌って大ヒットを飛ばしたのは、あまりに有名である。エイプリル・ワインなどはマルチ・ギター奏法で独自の力強いロックの世界を築き上げつつあったし、タッチ・メイソン・バンドは東海岸を歩き来しながらブルースを演奏していた。

カナダのふたつの文化圏がぶつかり合

うモントリオールでは、英仏両語をこなすポップ歌手の登場という新しい現象が見られた。そのうちのひとり、バック・ツイー・ギヤランはニュー・ブランズウィック州でのカントリーを皮切りに、ポップのスター兼ディスコの女王の座を占めたし、マイケル・バグリアロは、フランス語で力強いパンチのきいたロックを歌い上げることに成功した最初のミュージシャンであった。ミシシッピで生まれ、粘りのあるゴスペル調のロックを聞きながら育ったナネット・ワークマンは、一九六七年のモントリオール万博でその力強いハスキーな声を披露してからというもの、英仏両語でフアンキーなのを聞かせ続けた。また幼い頃からイギリスやアイルランド、それにフランス系カナダのフォーク・ソングを歌ってきたマカガリケル・シスターズなどは、これらが混じり合ったユニークなフォークの世界を作り上げ、イギリスの新聞から史上最高のフォーク・グループと評されたほどである。



カントリー・ミュージックも隆盛期を迎えた。ハンク・スノーやウィルフ・カーターなどの大衆路線の伝統を受け継いだカナダのカントリー・ミュージシャンは、当然のことながら聴衆にとっては他のジャンルの音楽家よりも身近かで親しみやすかった。まずラジオで人気を博し

たカントリーは、一九七〇年代半ばにはテレビのバラエティ・ショーで一世を風靡するに至った。トミ・ハンター、ロニー・プロフエット、ミルナ・ローリー、マーシー・アラサーズ、アル・チャートニー、リズム・パルス——こういったミュージシャンは、二十年ものあいだ人気を維持し続けている。彼らは彼らで、キャロル・ベーカーやグッド・アラサーズなどの若くて優秀なタレントを中心とする新しい世代のカントリー・ミュージシャンを育てた。

これらのすべてのジャンルがたて糸よこ糸となって見事なタペストリーを織りなし、カナダのポピュラー音楽に深い味わいを持たせている。カントリーはフォークと混じり合い、フォークはロックに影響を与え、ロックはジャズを取り入れた。そして新しいタレントは新しい音楽を生み出す。例えばラフ・トレードは繊細でちよつと気取った都会派の音楽をつくり、マーサやザ・マフィンはバター・ワイズと共に、荒々しいニュー・ウェーブのスタイルを築き上げた。またドクとザ・スラッグスは、現代生活に対するおどけた解釈を、六〇年代初期の陽気で楽天的なポップ・スタイルでまとめてみせた。また目まぐるしい変化についていけない聴衆の心を和ませしてくれるポップ・アーティストも多く、例えばフランク・ミルズのみずみずしいピアノの音やヘグド・ハーディの絶妙なストリングスは、賞だけでなく熱烈なファンを獲得している。